

事例から学ぶ

相談員のための **トラブル対策**

NEWS

**デイの園芸レクに農薬を持ってきた利用者**

## ■ 親切心からの行いですが・・・

デイサービスの女性利用者Mさん(78歳)は軽度の認知症がありますが、比較的自立度の高い利用者です。家が農家で長年農作業をされてきた方なので、デイサービスの園芸レクが大好きです。ある時、みんなで育てている花に虫が付き始めたのを見て、「うちにすごく効き目のある殺虫剤があるから今度持ってきてあげる」と言いました。Mさんは翌週の園芸レクの日自宅から白い液体の入ったラベルも何もないペットボトルを持ってきました。

「今日はこの殺虫剤を薄めて畑に撒いてあげる」とやる気満々なMさんですが、Mさんが席を離れた隙に隣の認知症の重い男性利用者のSさんが殺虫剤のペットボトルのキャップを開けています。すぐに気づいたMさんが「私の殺虫剤をどうするの?」と駆け寄ったため、職員が気づいてすぐにペットボトルを取り上げました。Sさんは異食癖があって、何でも口にしてしまう利用者なので危険なところでした。Mさんの家族に問い合わせると、ペットボトルの中身は身分証明書が無いと買えない農薬で、物置に入っていたのを持ち出した物という事がわかりました。

**異食の時、生命にかかわる危険物品は意外なところに**

## ■ 家庭内の誤飲事故で問題になるペットボトル

家庭内事故でも度々問題になるのが、ペットボトルの空き容器に飲用でないものを入れて誤飲する事故です。認知症が無い高齢者の家庭でもたくさん起きています。デイサービスの利用者は在宅の方であり、本事例のように家庭の危険物が施設に紛れ込むこともあり、注意が必要です。

さて、本事例のSさんのように、デイサービスの利用者の異食・誤飲事故はどのように防いだら良いでしょうか? 入所施設でも同じですが、身の回りの物を全て管理して異食しないように注意することは難しく、異食事故の対策は「異食した時、生命にかかわる危険物品だけ厳重に管理する」という対策になります。では、異食事故で生命にかかわる危険物品とは、どんな物があるのでしょうか?

## ■ 厳重に管理すべき危険物品とは?

異食事故防止対策で厳重に管理すべき危険物品は、次の3種類に分けられそれぞれ危険度が異なります。

## ① 窒息のリスク⇒最もリスクが高い

異食した時に喉に詰まる物: ティッシュ、トイレトペーパー、ハンカチ、おしぼり、綿(わた)、クッションのスポンジなど

## ② 食道や消化器官の損傷リスク⇒リスクが高い

鋭利な物: 画鋸、ホチキスの芯、釘など先の尖った物品、  
化学的作用でケガをする物: ボタン電池や強酸・強アルカリ洗剤

## ③ 中毒のリスク⇒比較的风险が低い

体内に吸収され中毒になる物: ガソリン、殺虫剤、アルコール製剤、煙草の浸出液、アルコール製剤、漂白剤など

※異食した物品の危険性が判断できない場合

「中毒110番」に問い合わせ、処置の方法など聞く。中毒110番(財団法人日本中毒センター)

TEL 072-727-2499(365日24時間対応)

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

マーケット開発部 市場開発室

担当 堀江・窪田 TEL 03-5789-6456

監修: 株式会社安全な介護 代表 山田 滋

担当課支社・代理店